序　　文

サハリン北東部大陸棚では、サハリン～Ⅰ、Ⅱの二つの石油・ガス開発プロジェクトが２１世紀初頭の本格的な生産に向けて始動しようとしている。開発の遅れていたサハリン～Ⅰも環境に対する影響評価の本格的な作業を進め、レポートも提出されるようになった。

開発が本格化すれば、北東アジアに強力なエネルギー基盤が誕生するが、同時に環境面での負の影響が懸念される。とくに、オホーツク海での石油開発にともなう開発現場での石油流出やタンカー輸送による石油流出事故の不安は、オホーツクの海を共有する北海道住民にとって大きく、他人事ではない。他国での石油開発であるだけに、開発当事者がどのように開発を進め、ロシア政府が環境面でどのような対策を講じているのか不透明な部分が多い。そのことがとりわけ不安を増長させている。

本書で報告されている内容のひとつは、開発当事者が流出油による海洋汚染をどのように防除しようとしているのかを開発側の環境影響評価報告書から紹介したものであり、残る二つはオホーツク海沿岸の紋別市において本研究チームが主催した市民講座およびワークショップの議論の内容である。

本報告書が、地方自治体や住民、とりわけオホーツク沿岸住民が流出油防除に取り組む場合に、参考になれば幸いである。

平成１５年３月

研究代表者　　村上　隆
北海道大学スラブ研究センター・教授